



中村俊定文庫
文庫 18
678
3





俳諧発句題林集秋之部

七月

立秋 ころの秋 せねの海

迎起くるまはしな修やとね乃秋 菊文

そぞろ浅茅はまやけさ乃何れ 嗚空

とね秋とまゝて門くく男ふ 存義

涼しさのりてこうりきりと秋の秋 太祇

大根乃二葉平まやきと秋 素菴

秋よりやまのふねむくや秋候 冬次

海山おんくまらやきさ乃秋 風園

蘭文定
車蓋輯



心ちこもきる能非子やと秋の秋
 あく海より題目又くときき秋の秋
 せうり少とて秋を事ふなりふ
 浪一ツ覚しちこくわを秋乃秋
 く川秋や秋の秋なる秋
 秋末の秋合長くく秋の秋
 秋の秋や秋の秋なる秋
 秋半の秋や秋の秋なる秋
 心いとく秋の秋の秋なる秋

白波
 鬼也
 大鳥
 几董
 菅村
 柳良
 青花
 在草

初涼 新涼

秋ノ一

秋もこや秋日さきく涼なる秋
 涼もさや秋の秋なる秋
 秋の秋あく秋の秋なる秋
 秋の秋の秋の秋なる秋

白波
 大鳥
 菅村
 青花

秋もこや秋日さきく涼なる秋
 涼もさや秋の秋なる秋
 秋の秋あく秋の秋なる秋
 秋の秋の秋の秋なる秋

白波
 大鳥
 菅村
 青花

一葉 一葉舟 相菱

阿きけのまに中より一葉舟 菱舟
 花より来りしとまをくちのり一葉舟 三風
 ぢくをた工乃借り一葉舟 路主
 相の葉や来りて居るは 椀亭
 阿きけの隅に居る相一葉舟 菱舟
 禪乃半ば居るは 相一葉舟 福竹
 一葉舟 二葉舟 ても多し 石波
 柳菱 椀亭 極菱
 菱舟 小舟 ともくぬ柳舟 一中

柳燈籠 真灯籠

古津跡にふたりまゝ菱舟 石波
 菱舟夕焼くは戸口より 左舟
 菱舟やたれすうの夕の目も 暁舟
 柳菱 清水洞石より 菱舟
 楫まゝ 風流待たぬ菱舟 喜舟
 菱舟乃舟に移るは菱舟 屋舟
 柳燈籠 真灯籠
 ふる花もまゝのや 柳燈籠 大根
 つくくとも見上るや 燈籠 晴舟
 中舟やまゝの菱舟乃阿き燈籠 燈籠

撰後

言燈心花ささるんとすう阿きさひ
けけしと上京さるる言燈心花
露きしや言燈心花のさく燈
目比来乃身ぬさ何し言燈心花

葎村
白波
白旗
淑春

揚行や煙管のすれと西へけ

葎村

きりしなやま上京乃よん所

祇忠

揚行や煙管とさかぬあさく旅

樗良

北野御洗

自洗しと御洗色さうくの業

竹高

秋三

七夕 早糸 糸星

今更なかくいととささるる二ッ星
何ふ秋とくくくく早糸糸星
糸星今ハ本屋まくとんゆふし
乾衣り糸とくくほく糸糸星
ほく合糸とくくく世乃糸
宵糸糸とくくく糸糸星
七夕やカと入と糸糸星
七夕や糸と糸糸星
大内乃くく糸糸星

糸星
樗良
二柳
葎村
白波
白旗
淑春

菰車より一足寄り別れ去らん 翠風
 は山ふ月日一里乃一軒が 吟麦
 早も何い乃きくぬあや飯と汁 橋竹
 牛乳もやあ中たうこ妹居よ 大祇
 阿きけのやきくい小清と二ツ星 左草蓋
 天の川 年乃後 妻迎舟
 尺く初く今言まは清く天乃川 警冬
 早もふ年おとろくや門の橋 白燈
 素麩乃そたちきりや天の川 文二
 以て流すく清く新や天の河 曉玉

秋四

少り上く館何こ中らん牛乳角 文花
 天乃川 赤を纏乃重きさう船 白燈
 せかく志く巻とを成りう天の河 石波
 天の川くし淵渚のむとひ有 左草蓋
 静く橋 二星の屋形

屋形志く二星寄らん替心取 芦涯
 きぬくし静く尾は白小り 石波
 静乃も柄をうけしけし一軒 大魯
 かきたの橋やうたせのワとる 牛角
 くるまや夕日し橋と無く家 夢風

秋衣

途下りいひぬ秋衣衣う那
あまの秋衣衣うあまの衣
秋の糸 七巧奠

垂るくぬく秋衣糸の白きよを
一すちりしとほいと深し秋の糸
七も秋衣や秋衣いりすき
何れも思ひ秋衣乃秋衣
立琴 七箇地

立琴 小ト 七箇地 秋衣 七箇地

秋ノ五

秋衣

秋衣乃秋衣と秋衣糸の枝折る
くら秋衣と秋衣糸と女文字
ちりいと秋衣の糸と人娘の
秋衣糸の糸

七箇地 秋衣 七箇地
七箇地 秋衣 七箇地

秋衣

秋衣 秋衣 秋衣 秋衣 秋衣

こころやいとし早に法志しり
本教寺門跡に在る
遊音

心願をいし四季も通しり本教寺
未将

七夕の鞠
七夕乃りしはつらとやを成徳
貞魚

池之坊之志
志心や其の四季もいり乃坊
淡く

送之宴入
七之志は修教かきりり送乃呼
全

秋ノ六

六道系

六之乃止とくくくく
遊音

親より似て老小違りり遊之種
几童

志るも心とくくく
芦雁

せし種をれけと持と海小涌ん
雲水

浄をくも遠くおきくやむうん種
種人

檀堂 真野様

種はとくく佛小なりぬ言所と様
淡く

種しりもいん乃り重しちいりて志心
中平

清水寺の日記

子日や子解小ん申ふ流のいと 生
子日 糸流とや糸解未玉が 六降

于血崇を盛 糸の舎

于血崇を盛や市小志く一死を鳥 也
子まきくあふ人乃 糸の舎
あふく骨を提げ返さきり 暮
糸解を盛やまねを一つり花賣 渭橋
糸を志く一糸の舎とく一糸の舎が 白柱

氷糸 意棚

氷くまや竹まき糸一草乃 氷 凍帝

秋ノ七

氷糸を盛や糸解小ん申ふ親の魚 柳良
何らまき竹や竹流のすまむ玉糸 草村
糸解を盛く一糸の舎とく一糸の舎 糸更
糸解を盛く人まねを一つり糸 流
糸解を盛く糸解を盛く一糸の舎 几董
糸解を盛く糸解を盛く一糸の舎 北枝
糸解を盛く糸解を盛く一糸の舎 巨波
糸解を盛く糸解を盛く一糸の舎 希周
糸解を盛く糸解を盛く一糸の舎 太抵

麻壳 菅尾草 枝さくま

何申人ノ麻本姓中乃古ノ也
 扇尾子や 舟小ノ古ノ 曉家
 敷介ノ古ノ 枝ノ古ノ 五如
 扇尾子や 舟小ノ古ノ 似鳩
 暮糸 施縁鬼

持ノ古ノ 寺糸 芥水
 蟻ノ古ノ 瓜茄子 宗文
 施縁鬼ノ古ノ 宗居
 傘ノ古ノ 支考
 せりきたる我 穀は沙と云たり 一映

秋ノ八

生身玉 蓮飯 刺結

死ナリて 歸ふハ 夕暮ノ飯 宗文
 淨瑠璃乃 上ノ過ノ生身玉 移竹
 刺結ハ 何モヤ 淋ノ親一人 在葉蓋
 刺結ヤ 袖ト 昔ノ 大祇
 角力取乃 文小キ 或ヤ 生身從 移竹
 送火 大文字

送ノ古ノ 燈ノ古ノ 宗文
 何ノ原ノ 舟小ノ古ノ 舟村
 山乃 燈ノ古ノ 舟小ノ古ノ 宗居

送り火や洲をく遊く風あふ
送り火やまのこは飛乃 空を
送り火や後さうきくうゆ
送り火や白のまは阿子川白し

灯笼 盃月

夕晴や切花さけり未だ町
多き月市小陰あふくを波
世の中は花ももてくをその月
死す一とちりなりをその月
一さふ小河をくぬけんの月不

衣邑

燈籠乃大く消くほんは月 左草四

盆はく入

つと入くせ一と誰とくまきり
つと入や知ふくふ河子柳子ぬけ
すくこあもてそつと何れつと入

踊

おあひ切くやまをんをすん踊家
岸乃ささしはくをる踊家
未つむらうららむいも踊家
かとおくおはくをる踊家

鳴家 草村 太抵 石波

三井寺女詣

侍り身は高う	いととて	史邦
人しきく	秋風信	細石
しきく	人しき	百法
とて	子と	魚所
帯	結ふ	斗室
横町	八言	移竹
し	た	可掬

秋十

新綿

新綿や	い	古塘
新	い	白雀
八	悔	欠兼
花	か	左葉
路	人	由平

解夏草

水掛草

手取子尾首の説志くく
く渡

地藏宗

地蔵今やけも徳ぬとくけ也
希周
芋柿の百味をまると地蔵はん
風快

淨射山系 積屋化

淨射山やまのこはるくま里
余文

く乃も成神ふくまて積屋化
庵堂

まふりや積屋より生れ朱傘
余文

神風より一むくくぬ積屋化
東葉

淨雲師出

多うきく阿くく淨雲乃り
五如

相撲 小くく仗 百合

紫赤く色すく白くく今也
皆有

とくくくくくくくくくくくく
余文

みくくくくくくくくくくくく
曉堂

まきくくくくくくくくくくく
葎村

川紐くくくくくくくくくくく
太祇

負すくくくくくくくくくくく
志く

お撲くくくくくくくくくくく
玄梅

持くくくくくくくくくくく
布人

猪角力人のいしはくもくうり
移るるく坊にガをきく山角力
結乃所を川に流すまふふふ
沖角力や中ふふふふ少ふ
ふ盤に二十ふふ流ふま盤ふ

雲

ふふふふやふふふふふふ
ふふふふ戸のふやふふふふ
冷すくはくやふふふふふ
ふふふふふふふふふふ一日

秋十二

村入くふふふふふふふふ
村々くはふふふふふふふふ
賀茂川や破ふふふふふふ
武士乃ふふふふふふふふ
ふふふふ人乃ふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

雲

軽きくや清く流るる跡
細代ふふふふふふふふ

糸くちくまきとてきかき何そ糸が
 川之りやふるしち入ふおのれ多 大祇
 うーこくと世に出まきりきりの凍 嘘を
 石火まきりおのれやきりいふ 石波
 きりこまきりおのれや馬乃尻 几董
 きりたきり大まきり町くおしきり 杉竹
 卯きりや村きり乃布おのれ 奇村
 稲妻 稲及
 稲つまやおのれとておのれ山くおのれ 夢を
 きりつまやおのれとておのれおのれ 宗更

秋十三

心り川まやそとておのれおのれ 石波
 稲つまきりおのれとておのれおのれ 奇村
 稲妻きりおのれおのれ乃ておのれ 大尊
 心りつまきりおのれとておのれおのれ 几董
 心りつまきりおのれとておのれおのれ 石角
 稲つまきりおのれとておのれおのれ 大祇
 稲風
 何さうおのれおのれとておのれおのれ 櫻良
 稲風やくおのれとておのれおのれ 夢を

武蔵野やうふさ入る花を
 秋の一人切ちぬ草乃しふ
 花の心を葉うらふもあうき
 あいのりもむもわくぬ小ぶら
 とくまてし菊もあききり草花を
 女郎花
 多岐野やくもすきりぬめり花
 秋の風はくもきりきり花
 秋の野はくもきりきり花
 秋の野はくもきりきり花

秋十六

侍は昔日かきしきみかた
 花のうもわくしきりきり花
 きりきりも花もきりきり花
 花のうもわくしきりきり花
 花のうもわくしきりきり花
 花のうもわくしきりきり花
 花のうもわくしきりきり花
 花のうもわくしきりきり花
 花のうもわくしきりきり花
 花のうもわくしきりきり花

花

几董
 花之
 三花
 花
 言
 花
 花
 花
 花
 花
 花

世無やも枝ふき〜むはくは
 阿さるふあ〜むはくは
 朝風やふたはく〜むはくは
 芝草小を回るも〜むはくは
 芝草や日刺乃〜むはくは
 芝草やも枝は〜むはくは
 夕顔のまゝ ね〜むはくは

夕顔乃む〜むはくは
 夕顔乃む〜むはくは

秋十七

瓢箪乃新瑞〜むはくは
 瓢箪やつ〜むはくは
 萩 糸〜むはくは

恵〜むはくは
 う〜むはくは
 枝〜むはくは
 多〜むはくは
 夕〜むはくは
 色〜むはくは
 志〜むはくは

あかかーい小糸ははるきとて乃花
阿のゆふりやあまをそ花ははるき
あまのゆふり乃花ははるき阿のゆふり
花ははるき

まははるきあまをそとて乃花の殿
あまをそとて乃花の殿
あまをそとて乃花の殿

あまをそとて乃花の殿
あまをそとて乃花の殿
あまをそとて乃花の殿
あまをそとて乃花の殿
あまをそとて乃花の殿
あまをそとて乃花の殿
あまをそとて乃花の殿
あまをそとて乃花の殿

雲より飽く茶ふつく嵐を移り
茶は茶や有本集一香乃を
藤袴 桐子

夕日さしはるきとて乃花の殿
師のゆふりやあまをそ花ははるき
花ははるきやあまをそ花ははるき

芭蕉
非亦秋言んてあまをそ乃花の殿
風ははるきとてあまをそ花ははるき
つるははるきとてあまをそ花ははるき

蒼々たる色蕉乃るの草が
ついでに赤い花のつぼみ
石波 嘯を

小車のをむ

小車より遊んでくれば口折る
小くふり花をまのいへる
和及 赤玉

梧梗

むきやう名のしれを臥咲小々
梧梗咲く心のまもむのいへる
嘯を 標良
帰ふ乃秋枝くさるまやう那
鬼蕉
河けけのや梧梗のふれを吐
子然

秋十九

きんぎょのしるしを流し鞠を
まきかきしるしを流し鞠を
者橋
馬を飼ふやあまきや小車ゆらん
松湯
けきんぎょを流し小車ゆらん
さげ川
小刀を流し砂まきかき梧梗が
杜若
見らるゝくたまひまき梧梗が
さん女
新風を流し梧梗乃つばき
斗舟

か子神

きんぎょのしるしを流し鞠を
嘯を

秋

漢詩

何く野へまゝかきこむるも赤
曼珠沙を扱もとぬ天窓の
山科や菊をまゝく曼珠沙を
菊を扱や旅人病くまゝまき
葉重花
史邦
志計
蓮斗

玉うらうらま申し葉金を
露こころとく瓜根の葉を
秀玄
高川

秋のころりし曇り冬を
益母草 めくし草
久好

目くし草人乃と種ぬさるる
定哉

刀匠や一ツとくし猪く有
根口
孤境

系瓜
垣乃草津くさりぬ系瓜の葉
葉と毛たぬし世に系瓜系
有極く己名たすく通す
世にまきし猪くまゝまき
け草少ふたりてし世に系瓜
嘯玄
久仙
存義
荒白
石波

番椒

手書と唇のやー一原のり
豆腐のやー川の由縁と原のり
明の何ーも之と実なりぬ番椒
原のりー茄子小糸と香葉のり
海老も之ぬ根やたのり
まーいと江産のり本とす番椒
涼中

西瓜

うー町や西瓜のりたのり
けりけりー西瓜のりたのり
世好
大祇

秋二十二

葛麻

いーこまや沖のりたのり
飛本

蓮乃実飛

宗さやー蓮乃実の飛あまのり
蓮乃実の飛り噴ふ小のり
希周

本此の實

木瓜亦や実を榨し其の色乃油
也

槐

うー此葉のり射さるる槐のり
常規

常山

養蚕

原

みのりやうんばかしのり終るる木枯 鳴き
 えのせししは鳴きくそ啼きふふ 采天
 みのりやうんばかしのり終るる木枯 鳴き
 えのせししは鳴きくそ啼きふふ 采天
 みのりやうんばかしのり終るる木枯 鳴き
 えのせししは鳴きくそ啼きふふ 采天
 みのりやうんばかしのり終るる木枯 鳴き
 えのせししは鳴きくそ啼きふふ 采天

秋ノ二十八

み

稲

稲乃やうんばかしのり終るる木枯 鳴き
 えのせししは鳴きくそ啼きふふ 采天
 稲乃やうんばかしのり終るる木枯 鳴き
 えのせししは鳴きくそ啼きふふ 采天
 稲乃やうんばかしのり終るる木枯 鳴き
 えのせししは鳴きくそ啼きふふ 采天

花火

半くみまきまらまきなりを火が 土川
赤火をまきしのまきまきを火が 白空
を火船をまきまきまきまきを 石波
お祭りまきまきまきまきまき 舟村
秋の日 秋まきまき 秋のまき

秋のまきまきまきまきまき 朱徒
赤火のまきまきまきまきまき 土卯
まきまきまきまきまきまき 文字
二色乃のまきまきまきまきまき 石波

秋ノ三十

明早まきまきまきまきまき 土卯
穿人乃のまきまきまきまきまき 福竹
あまのまきまきまきまきまき 鳴堂
おし水

秋のまきまきまきまきまき 石波
白無乃のまきまきまきまきまき 石波

八月

八朝 田面祝 弦の音

ハさくや弦をまきまきまきまきまき 鳴堂

八朝や四座の神返る 石波
 ハカヤ 船引のまきりり袴 橋下
 ハ朝やさくく聖なる二日月 奇村
 朝日よ 妻の神申す 化字
 守くく 朝梅乃 白い系 香風
 古所乃 女おや ね母の祝合也 太祇
 昔はも お自書く 齋の志守也 鳴玉
 繪染 一古尼も 好ふり 苔ふ 岳木
 出代

橋下子

出代やうさくさく一ツま 女吟
 竹花春
 生まらぬはくもくしん 舟おき 龍舟
 女らんん 女りり 竹乃春 香風
 水村奈
 水村乃 女おく 女や 女力 女元
 天非奈
 生らぬはく 頭系 女 女 女 女
 小野奈
 地まらぬはく 小野乃 女 女 天龍

白紙了母怪

ふく新や子怪のりも波静 夕好

敷か系

高か系ワの静遊りの砂粒上 夕好

司石

あふとく言始な静す司石 夕好

神うとん伊好や日向乃目冬 夕好

生は静り

山崎く阿ま好系静や放生會 夕好

しきしきおまおまおまおま 相五

放生會

まの生はとくのらも花賣 本好

嘘は静志くま静山下山 夕好

静生會阿した中への後系 鬼産

阿野津八情系

付は阿ふつまらるるの静い 和及

志望八情系

八情をすくくくくくく 夕好

夕好

宇佐宮系

大言曰うらまはせむのたふさふさ 存美

箱崎系

築崎之神系乃けり之系 西成

初月 二日月 月

二日月やおの香ふむ系方の程 梅竹

夕暮や早より進まぬ二日月 中平

若くもや風流く心まき二日月 左筆四

言くも色もぬり給ふ二日月 櫻良

くま上り給ふ山まきや二日月 希周

二日月や紫の心まき一ツ 素堂

杜よりすくぬる乃り素系 曉香

月まき河の系まき二日月 逸之

黒谷乃初秋鳴月名野川 几董

待宵

待しひや整乃表給連歌まき 素堂

すけいひやぬるまきむ本織系 梅竹

待宵や西のまきむまき乃未 宋阿

名月 夕の月 月也

名月や西のまきむまき乃未 梅竹

嵐うく草花中しるきよの月 櫻良
 人遠くありきくきくおれ月 嘆堂
 名月やふしとくもふさ乃風 層ぬ
 名月や年くはれおれ 麦水
 名月やたうおれおれ 虫生
 名月や月もくおれ 夢古
 ねくくやこく小月くくくくこ 不祇
 思ふものしとくや月おれおれ 石波
 名月や人乃うくおれくく 磯一
 すくくく織アくくくくくく月 新絲

秋二十四

名月や久城まはれ沖乃山 豊安
 名月や初春とほい定まらぬ 藤英
 馬よりけり春も阿くくくく月 淡く
 新はせぬはくくく月人く那 鬼母
 名月やくくおれおれ子も橋も 南苗
 名月や山は川也海何うく 路鏡
 名月やくくおれおれくくく 北江
 名月や志くおれおれのくくく 野波
 名月やくくおれおれくくく 蝶解
 月今も自ふくくくくくくく 畏大

芙蓉

月宿て我乃芙蓉の影ありき
公芙蓉の影をたけしめく我は
之くく小りもけり玉芙蓉
等くくくく芙蓉の影あり
月くく玉女もむく芙蓉の影
生角

木犀

木犀や移ぬりし影は
木犀の影をよききぬ我は
影程く影のきくく影あり
石波
有有
鬼産

漂のむ

花はくく木をくくく漂き
南川

蒲萄

是利の深衣をくくく
空ましく生るるの蒲萄
これくく蒲萄の影あり
蒲萄の影をよききぬ我は
石波

雪

花をくくく岸をくくく
雪をくくく雪あり
雪あり

宇治のむす

むすむす乃けのよやう宇治松さ
ふとのむすーりころ宇治の里
翠水

花野

ニアしーいニアせりよむ野うふ
むすむすくーいよやまーんまま
ささぬ乃ゆーろれまふむ野うふ
首ーくーを入朝乃ま野うふ
弱まふれままーつーふ花野うふ
又けまふれままーくーくま野うふ
大祇
喜茂
風烟
干苗
温右
そ梅

上清 尾花

梅けしりれくーくわぬ花野うふ
吟松

一すらも露ハ残さぬすうたふ
山とまろく野ハまろれとるたふ
花外トーゆれままふ野うふ
あゆまはとまらる乃うたふ
くーくまろく野ハまろれとるたふ
種すまやゆ自乃種まら乃月
蛇乃まぬまーすまのぬか
稲妻トーゆれままふ野うふ
梅竹
苜村
十平
木枝
系更
従者
唯香
万平

高田水好うく志くしつ尾赤
たの勢り志くし里ありく村尾を
晴まを

刈萱

くおるやのほくも陰く空の光が
野路乃る刈萱しとう有れ候子
かふるやまきくも秋乃ちあがるも
原更

花紫

紫ふれむうりまぬ秋乃重
嵐山

藍く花

花さうりハ色と後くも花の志
雁人

檀特の花

半んんくおぬあま志く後をが
定本

檀特やうき世小くも花の色
麦浪

月草

月草小露もて志くくも
晴まを

露そのと色おしきけと何れし
左社

月草や三草もて好乃花の色
柳良

草

草うまきくも草人上家草うま
晴まを

谷合や草のけふ花乃色
蚊足

字はく行とけきき乃徑うふ 眉山
氏士しつまをたきあひのちが 麻雪
引くふききや楮乃ちううと 古祇

葛

葛は葉乃うみ影を細るが 葎村
うくくく葛の葉たろくをふ 雅周
葛乃葉も吹や吹きぬ裏表 石波

葛

本紙外

矢子梅ふ雅夫うユやとろくと 素風
本紙外ふかよ芝ふ白紙うた 眉山

秋ノ四十

うくく外本草は月表の競が 天
字の色月

色はくくさふとくはく小草ふ 惟然
色はくくさふとくはく小草ふ 志止
さくくく春ふとくはく志壇が 皆角

野菊

牛吼く朝り先てふ野菊うふ 心
高なるてさふよ何またん野菊が 任可
かくくくさふちやむ咲野菊が 石波
川乃流のうくくて政の野菊が 庸山

なつしき世世花の下に咲くもよみ 夢村
風仙を

石土とく人すれり 風仙を 夢政

新花
君崎とふとすきぬ 新花を 史邦

新花や 下きとつとふ花は果 有稿

新花や 葉とく 秋のそとけり 夢島
小刀にん切味や 久とく 一扇
新本とふき伝とれく 久とく 夢村
新花に 秋花とるはなるとり 夢文

新花や くれお意乃 夢さく 夢村
けいそくハ如 終花を 久とく 夢野

金剛抄
根花川を中くつ 金剛抄 言水

鎌紅
花屋とく名はさく 夢 夢村

かき川を志 厚葉紅 竹亭

うす川か 花とく乃 夢さく 夢村
夢我干 堀とく 夢さく 夢村
夢我干 堀とく 夢さく 夢村
夢我干 堀とく 夢さく 夢村

夢我干 堀とく 夢さく 夢村
夢我干 堀とく 夢さく 夢村
夢我干 堀とく 夢さく 夢村
夢我干 堀とく 夢さく 夢村

そ此

「まき」物と云ふ此す、むら葉少が
み此や、葉子ぬくの社乃高
み此や、まふワひくことき下
藤外

往く色

「まき」並人のや、まき
つら、まき、まき、まき、まき
今朝、まき、まき、まき、まき
まき、まき、まき、まき、まき
太祇

杜子根

古流くても、まき、まき、まき、まき、まき
杜子根、まき、まき、まき、まき、まき
太月

牛房引

杜子根、まき、まき、まき、まき、まき
牛房引、まき、まき、まき、まき、まき
外舉

芋 小芋 芋堂

む、まき、まき、まき、まき、まき
鴨、まき、まき、まき、まき、まき
新、まき、まき、まき、まき、まき
芋、まき、まき、まき、まき、まき
干、まき、まき、まき、まき、まき
太祇
定武

ぬりこ

莫不類

草を敷けや秋語るき小樽鉢
くまのさかきくすし餘ふゆき

既白
奇村

苗垣

垣根より秋を降るふりよ

徳元

薬垣

茶垣垣とてきてむらうき果

太祇

さく月を何のやろくや薬垣

二柳

尺之初とてさく人しんすう垣

白柳

桃原乃きとゆり薬垣

孝の

教ノ四十四

苔香引

先ききり引てとておれくらげ

雅因

加美香引

みんくま敷くたやく川まぐら

兵武

外安

うらやみおれまらふも秋のつが

依唯

生綿と

も吹

まらまら茶おれさくおれや孫畑

太祇

ついでやまらとておれとてんく体

奇村

おとらや白の中よかこま

石波

ワケれしと神とてさやまきりて取
 如竹
 新綿やまきりたれ乃細きり
 福竹
 本ワケしと神のぬきまはるる
 泥足
 不接とまはる内れとまきり
 藪石
 多煙子
 新水とまきりてさやまきりて取
 在桂
 高煙子新乃細きりやまきりたれ
 田福
 車とまきりて白とまきりてさやまきり
 太祇
 込く市日能くさまきりては
 晚山
 鬼灯

鬼灯やまきりてさやまきりて取
 石波
 山茨菰やつとまきりたれ神とまきり
 太祇
 ほつとまきりて細きり乃まきりて取
 進寄
 鬼灯や横たれつとまきりて取
 凡飛
 菜種まきり 大根前 石川菜
 標良
 標多とまきりてさやまきりて取
 定茂
 田たれとまきりてさやまきりて取
 麦林
 菜種とまきりてさやまきりて取
 五晴
 石川菜やまきりてさやまきりて取
 噴香

鳴

砂子ーけてまはさしはるる語が 春紅
 しくはたふふ乃報ー並ひくは 石波
 鳴初て野ま色又ゆまの語う那 櫻良
 しくは衣たよ身たひくさぬう那 梨一
 うんすくさしゆも産産のしくが 翠鳥
 春うほー語うしりまはるる 沾荷

柳波ー追まきくさー時乃後 嘘ま
 杉ま杉時おまうさう松ままま 余更
 淋ーま色ニッ乃時まワしりり 言た

秋十七

蕨渾ふ

田乃隅まうまおーてや時の声 重原
 時細ー冷乃風乃お夕ま 湖舟
 時まく杉天ううたたりうあま 舟村
 子乃時一おま時うまおふまきり 大色自
 志ま杉おふまぬまきく松乃ま下ま 若葉
 灯乃まおま時ま川門田う那 雁川
 時まおまや世村居まぬ唐まうま 若葉

草若屋自まうけまんぬまつてあま 浄律
 永くみくくま志まうまつてぬ葉が 麦迄

務負色

鶯鶯

ふりて

浮橋くみふたむちこつるはさぬ

湖春

菊はくまひをまきてかゝるゝて

可南

そよも怪し小いさせ日わや稲むら

栞夕

世乃中ハ鶯鶯は尾のしきまが

凡兆

とれまゝの尾はむらゝとるゝる

層海

初丁

く川原や日紅をくくくく

櫻良

初うらや月おほひはきほの上

石波

初原や一葉くく入舟の朝も

雪被

秋四十八

初うらや三葉まひんくく

夕代

く川原は位はまのく秋はさ

曉春

初原やつまくくはまのく

稲布

山紙、雪はまのく雁乃

牝玄

並ねや、くくくくく

推亭

原はまのくくくく

権川

雁うら乃くくくく

櫻良

後くく物まのくくく

言水

たれまのくくく

余文

純のゆまのくく

葎村

木つぎや何乃啼あぬうさなう
 標もつたぬ桂乃何した鴨おき
 甘くふお命いらしくおきか
 山蒼や極乃きあや一存よもさ
 小玉姓標もとぬきとかりさき
 子熱 子草
 時なりや未あうり伝き小松
 日影うして時乃熱あふま未草
 茶うぬ垂と流とうとすぬ草
 本影うぬあまう歩りや時乃草
 宗文 末波 宗文 末波 末波
 全

眼と律一時もききま鐘の声 歳人
 目なぬふ人のうさ時落し 暮る太
 小鷹狩 小鷹狩
 けけけむい似も侍や小しか狩 太祇
 云さ延乃むさうたさあゆ小鷹狩 曉を
 小しかうと何さぬえとま物保し 管水
 撰まくとむもささ小しかう那 既白
 雀 醜 兎
 急川さの雀つらさう草乃枝 専政
 標もうさし無さるふこのりも 涉

つとみ目乃小きまほふ本陰ふ 一牛角
野鷹

雪より色葉もかれりしつる鷹 五如
鷹子

鷹子少れ中対後りてまぶれ中 五兼
左刀更

左刀更の純くたりたる南風 五圃
くらしきやまめく風の流乃平 宗圃

左刀更 流乃由
左刀更乃より河より流世ふ 勇格

秋五十一

流乃の馬もふまぬはう那 一排
まよあゆやゆふれ人もなる時ふ 如牛

川麻

まよかま川流通りふり流れ 五文
川まよ中まよく時まよるうか 固友

まよまよくまよるまよる河流 五花
河流なり二流つまよる時 五水

まよあまふまよるまよる川麻 五葉
下り葉 五葉葉
川流乃まよくやまよるやれ 五村

川の夕や小舟下り水尾車一 南条

野分

市人のとく回らん野分ふふ 荻村

海山秋中野分ふふ 荒うた 余文

まいたんきおのつらん 彦月秋 百波

赤庵とりのお建らん 異風秋 二柳

せ乃とくおと華山子も秋分 柳和

浅川秋分とくお野分ふ 太祇

秋の田 稲刈 落穂

稲刈とくおとくおとくお 百波

秋五十三

秋分日乃坪刈ふふ 稲せし 尚右

とそや稲乃るなり 舟子とく 折右

うとつと 餅すらんや 稲乃とく 是板

一は車山甲しとくお 辻稲ふ 桃賤

まじくとと赤とと 餅ふ 吟徳

秋田川や明く 餅ふ 余文

厚おね乃 餅ふ 吟和

つと川や 餅ふ 柳几

稲ふとくおとくお 一人ま 天明

ふふのそとくおとくお 稲のふ 徳左

蕎麦花赤

秋のやまに花乃さきとやと波戸	萩村
しらさきとくまみふ海に花の多	望波
萩のやまにさきとふ花独ふさき鳥	白砂
あはれさきや花の割たに花結露	杉風
秋のさきとくまみふ海に花の多	萩村
しらさきとくまみふ海に花の多	望波
萩のやまにさきとふ花独ふさき鳥	白砂
あはれさきや花の割たに花結露	杉風
秋のさきとくまみふ海に花の多	萩村
しらさきとくまみふ海に花の多	望波
萩のやまにさきとふ花独ふさき鳥	白砂
あはれさきや花の割たに花結露	杉風
秋のさきとくまみふ海に花の多	萩村
しらさきとくまみふ海に花の多	望波
萩のやまにさきとふ花独ふさき鳥	白砂
あはれさきや花の割たに花結露	杉風

秋、五十六

鳥爪

麻

鳥爪をかく下さきとくまみふ海に花の多	萩村
しらさきとくまみふ海に花の多	望波
萩のやまにさきとふ花独ふさき鳥	白砂
あはれさきや花の割たに花結露	杉風
秋のさきとくまみふ海に花の多	萩村
しらさきとくまみふ海に花の多	望波
萩のやまにさきとふ花独ふさき鳥	白砂
あはれさきや花の割たに花結露	杉風
秋のさきとくまみふ海に花の多	萩村
しらさきとくまみふ海に花の多	望波
萩のやまにさきとふ花独ふさき鳥	白砂
あはれさきや花の割たに花結露	杉風

榎良

不堪田之草

ふうんてんりくまはらふ草一巻 言改

桂之宮相撲

角力果てて定き桂の夕ふ 元改

泉涌寺舍利舎

しき橋より下をせり舍利舎ふ 欠改

重陽の夜 九日 雑

初夜や道は白く去所中を 太祇

妙くしるや餅けきくし道は白く 福竹

初夜や道は白く去所中を 太祇

人かまのうしきふし 石波

あまのうしきふし 陰守

源氏小玉姫に侍りて 在坐

醍醐余

大湯ふれまらふ山 定維

沂音宮余

鞍馬余

すのふりて馬も甚く人新ら 寛人

岩取余

まつふらハワケウモサキキモ船川 女元
 生玉奈
 生玉やまつふらハワケウモサキキモ船川 徳元
 四ノ宮奈
 四ノ宮の奈人トヤトサキノモ 政元
 下多奈奈
 御座之トハ遊ノモサキモ奈奈 存美
 例幣使
 サキノモサキハナカヤハ例幣使 和及
 住吉相撲會

秋五十九

御負分て非ハ遊リハカバ 女元
 住吉之市 室奈市
 サキノモサキハナカヤハ例幣使 和及
 サキノモサキハナカヤハ例幣使 和及
 在ハカバハ例幣使ハナカヤハ例幣使 和及
 まつふらハワケウモサキキモ船川 女元
 白川奈
 石工奈
 后ノ月
 家ノ月

家ノ月

秋乃月すむららふり舞々系 晴々
 好月庭々一化あつくり々 太祇
 穠うけく里都ありのち好々々 藝々
 寸人風呂好々んきんくう好々月 喜水
 とす好々々ていりうきまきらも后の夕 葎村
 町々んとす好々々もけりる乃月 櫻良
 天王寺一系會
 未本記乃くまも一ツや一系會 淡々
 岩倉系
 ね女まてくくや久定合人すのりる 交元

秋ノ六十

勤学会
 秋文一々うなきけ一勤学会 麦水
 栗内口系
 楊々々々々々々々々々々々々々々 太祇
 一々官系
 正々好々々もまは一乃交 交元
 非田明神系
 見あを競々色好神田まらりる 岩倉
 非田まらりる秀郷々秋定々々々々 宗周
 慶會新嘗會 遷官

天王寺縁縁灌頂

漢取...縁...天王寺 徳元

右系系 牛系

角文字...月...牛系 荻村

沖...連...牛系 石波

...系...系 也者

淀系

...系...系 仙居

天満橋流馬

...系...系 東山

...系...系 大島

木幡系

馬...系...系 常長

鹿谷系

...系...系 几董

...系...系 木久

逆巻系

...系...系 西武

北山系

...系...系 五娘

福五神系

吟遊系

ガホクキキホ系ツキホセ破行

鉄山

津村系

野の言別 ぶねつま

アミヤノ別ヨシホ系ホホホ

雁人

つま楊子一落とれをね乃ふ

仙翁

桂川の津後

秋ノ六十三

雀蛤とみ

志川とみ 帯子落とる津後

牝周

花吟とみ くりも阿は程乃海

惟中

吟とみ 阿て多成吟とみ

巴夜

菊合 残葉 まる白縁

弥とみ 菊し阿とみ

余文

葉とみ 阿とみ

子運

ふとみ 阿とみ

櫻良

白菊や志川とみ

江涯

尺進とみ 白菊とみ

赤樹

九日小袖

子婦きく色きくふさふさ菊うふ
 山くくや極戸極ましくく上
 芙蓉菊右菊ふれふきふぬふ欲
 とくきぬも汝う齡く菊行玉一
 きりけいゆと極くふ菊行極あが
 ちまふふと白い八極一菊合を
 残菊やまのふふく一酒行極
 礼菊や孤乃極ゆふ定ま何ふ
 西落

秋六十四

菊その衣

翠の葉とふ八流の菊木く菊ま
 ぬ葉乃衣

帽けくくやましくみく衣ふ
 射敷衣系

紅葉
 町庭のふくくやふぬぬ葉
 赤葉

松明くくくくくくくくくくくく
 大祇
 余更
 嘘ま

日向すの紙をうへに紅葉が
 入りひらあわしつゝかぶるも
 色もワレに桜さしうらみ久
 掃きとぞうえく淋し夕も
 音水孔をくくかぶるも
 紅葉志ぬ茂すくく折ま
 何れ焚菴乃の煙やうの
 まいあふその葉根乃思
 下あしつゝれりもゆき
 切海りすくくかぶるも

櫻良 浅く 坡仄 暮る 奇村 優士 湖秋 左祇 麦水 巨波

秋六十五

夕たれやみそをふもあし
 神ささく色しつゝあふ葉

厚妙 左葉

名の本乃紅葉

名山やさくくあふり柳
 何れささく人あふり
 水清江やよと柞乃し
 紅葉一て足さくく
 梅さくく吹きくく
 柳りみち遠く行

奇村 曉葉 宗文 北枝 足風 佳葉

檀

松

ら

ら小かりふまふ成すていふ松ふ 仙居

名う代や松乃らうらうとそ 由平

此かりらうらう実成にけしき松 冷五

楓

そ中になれ志ぬあり楓うぬ 香露

喜な葉乃まてうらふ葉楓ふ 曲水

漆紅葉

血木よ吹らふも深き紅葉ふ 巴人

横らうらうやうらうらうらうらう 常能

秋ノ六十六

色きぬ松

色うらぬ松や和由より松夫後 露重

うらぬ松の程とらうらぬらう 松之

銀杏

稚子に寺かひうらむとそ 寺村

子んやまきこ松ふふ鴨柳うぬ 香露

小ハ葉に銀杏うらうらふ大徳寺 石波

木に実

木に実なりはゆふふふ木に実なり 晴水

木に実なりはゆふふふ木に実なり 脱白

榎乃実

室がけふより仲ふつとて榎の木家
一本づり二石と落ふ榎乃実が 風状

落栗 園栗

つと栗やいととらうくやうかして 湖竹
とんちんたれ落ふまじや 谷の坊 子谷
焼栗やまろくお上へ息う榎 純今
落栗や一本坊乃まろく 宗瑞
こつ栗木とりあつまておつうが 桃睡
とんちんたれ落ふまじや 松星

秋六十七

柞

落らるやあつとつとまじや落らるる 山林
しら栗まろくまろくまろくまろくまろく 交方

しら栗まろくまろくまろくまろくまろく 希俊
まろくまろくまろくまろくまろくまろく 宗文
柞松と榎川乃児れまろくまろく 杏村
まろくまろくまろくまろくまろくまろく 吉茂

榎

まろくまろくまろくまろくまろくまろく 定本
うらまろくまろくまろくまろくまろくまろく 太祇

秋の枝や折るゆゑにわらわは
 みるみる深き水に沈みゆく
 影のまはるやうな水に沈む
 志の折るやうな水に沈む
 山に上りて世を離るる
 去るは木乃枝より折る子
 水泉

石波
 糸更
 大倉
 二折
 桃妖
 有有
 水泉

菜菓

曉来
 白雄
 秋六十八

くらげのしり入る新川
 客棹
 抑も並座より多敷なくみうん
 一やうなるまゝ、志の折る
 撰出してさびしき毛やま
 共侍を遊ばせたまはる
 金棹
 きんうんやまの侍けし
 けんかんや油菜
 九年母

路通
 石波
 若西
 雑古
 指岡
 大倉
 文崎

けさる九年母らふしる能き
九月母や住持かうしてあまの
太祇

佛手栴

佛手栴や地ふる能文の言し
仏手栴や言ふか禪乃新し生れ
雅因

柚

飯をむと轉ししたる柚味
茶葉茶ふもて年々秋の柚みり
如空

聖母栴

聖母栴出しして、
新住 一波

楡栴

すふわろやち申辨ら其志
もねをほや赤みもねね秋乃色
山林

果布子の美

果布子の言や、
火中埋 欠煮

松栴

吟りすたさくろ無りふら
むらりくふらさすてわら松栴
室二

極

新住色を言ふも秋さね松栴
松栴

一、公のくまに真珠あてて芽吐うや
白咲
赤く出乃一柱の事ぬき一、野にや
西露

胡桃

山ゆり一、胡桃と轉ふ小雀の
柳多
あつたふとくくると刻きとる上
赤林

梨

吾梨少り一、赤橙葉乃ほそくは
旧國
阿つと紅実く人の阿本と山乃裏
水山
勾当ゆ乃あやうく探るとさくは
仙露
茅の實
とら餅

稼とらりし木を流はるとも盛るが
仙露
滋茂さき人のくくや茅の味
似鴉

標

祖河半生好かぬ標の都
と桃

橙

條得ぬらんうやとらぬ赤
赤六

板

云よん乃まや人もすこぬ木の形
一と

標の實

とらすハ実れは事下も標を場が
赤露

西海子

西海子に於て二牛を飼ふ事あり

雅周

西海子に於て二牛を飼ふ事あり

存美

釈穀

平陸乃くくろくを飼ふ事あり

太祇

善提子

ほくろくや種を種ふ事あり

大魯

梅種く実

らんらん梅実くくはくぬ事あり

既白

らんらん梅実くくはくぬ事あり

英吉

秋ノ七十一

椿乃実

美小成くぬくも実くくはくぬ事あり

竹亭

ちんちんの實

らんらん梅実くくはくぬ事あり

全

南天く実

南天や種を種ふ事あり

其角

南天乃実くくはくぬ事あり

並分

南天や種を種ふ事あり

や育

梅嫌

らんらん梅実くくはくぬ事あり

芽村

梅とくとき終るる落く枝さうり
とれ山子や伝る花偶乃梅りた
芦漕

橙

橙中しき色と花す二年一就
和及

野山し色 那山錦

色みこく風かた枝乃野山うか
林深

野山し山子家所ととん錦うか
標良

是乃野山うか花かき向く那う花
極遠

う枯

うううか馬も餅くふま枝う山
名也

秋七十二

うかきや西りりううか花の服
晴玉

う枯やううためるのう涼乃木
奇村

う枯やう豆磨るう小門の桶
まを塚

ううかきやとれうけさた志の山
毎采

うか花や針屋う書乃一足塚
相似

草枯

うかきしや竹花中り花のつふ
采更

草のう花やまきう色んゆふ花中
芦漕

草のう花や花入す花うふまう穴
素丸

草うたれ

すくなくたてえまをたけりすたれ子 麦林
すたれらふ赤く野宿乃焼火式 白旗
尾うちおやちふ埋きぬ馬の骨 麦牛
忍ふさ子

忍ふさ子
忍ふさ子
おりの草

うしやや赤橙乃あらしの草 竹
急よまぬ竹たてまつてやあし子 竹
草と種 草乃赤

何の種より沖けりぬの何よりか 太根

つらきより小魚つらきや草花志 各文
何の種乃あまたれかぬあし子 各下
草と種花志まつてあし子 鬼産
えやさ子 花産

アムシや志乃志き名紙も花中 唯丸
け村乃種と阿も左之やし子 竹林
花産や種花志まつてあし子 方山

秋本香

山城より久々くおろけりつらき子 言水
白い草まつてつらき種しぬま本香 土産

紙子本乃志

杉苗能下少後之のさうが 指石

老母草

いもろねともきぬき母草が 福竹

花乃時来つるさかき母草が美 石波

若草とさきほつるさかき母草が 存養

花乳豆

若乳豆能とも飛草の日和が 竹草

文二豆

文二豆や物とくくさかき 子清

秋ノ七十四

豆川

晩稼刈りも遠より赤豆が 孝治

豆門の町も何ともお鬼うま 元山

草拵 菌

しけ拵や様うさきしそのきり 牛岡

拵しけれ若焼きし小町お美 晴末

半きりやう鉄炮乃一炸り 石波

さし上く獲らんおきりまきの拵 全

草拵や大くおきりまきの拵 保良

まつしきりお鬼のくさかき木陰が 世雨

紅酒之く行くと云々

五高

春日城と所てふ

花巻と依傍を松原ハ何と云ぬ

連綿 ひとつら田

一休平山田と云ふ

名月も二五と云ふ

ひとつら田や日影と云ふ

吹雪刈村と云ふ

一ツ二ツ仇徳と云ふ

角松

宝丸

野村

枕崎

辰島

和且

貞忠

若政

秋ノ七十五

新酒

二里酒と云ふ

垂子と云ふ

母衣と云ふ

松と云ふ

紅葉山

あつた

紅葉餅

子と云ふ

つと云ふ

標榜

太祇

百波

層海

一波

竹亭

和及

小深江納

生舟は傍乃降る川江ふか 如竹

尾城の鴨

舟はふと来たり鴨は尾城ふ 木久

尾城ふ鴨歩ふれさくふ 希因

網代步

あふふと城ふんさく網代步 稀竹

あふふと城ふんさく網代步 芦雁

衣川

去月や川にまわす衣川細々 順水

秋七十六

袖乃衣

よひんと衣ゆく来つ袖乃衣 稀竹

明くり袖乃衣を馬合羽 存義

露霜

露霜よりさきさきやまき 菴苓

露霜よりさきさきやまき 希因

高町

朝も乃ねうもさくぬ高町の 江川

朝も乃ねうもさくぬ高町の 策文

朝も乃ねうもさくぬ高町の 北十

落き

高野山より所々ありて生るる白糸
高野山

高野山より所々ありて生るる白糸
高野山

肌之 漸き

けさささし竹切山より紅葉
凡兆

新くして根をきき表に
嘘を

漸きや沐浴すもろろ空を
夏迄

熊谷乃傍るを去り漸き
一旬

衣之 新き

秋ノ七十七

髪少なりおろりて長きなり
帯村

旅人や表をききいりふゆり
衣祇

椎能実乃板をきき
嘘を

怪談乃後をきき
白飯

嘆く人よ妻をきき
几董

枕より何れをきき
衣蓋

火よりしてをきき
屋敷

二口喉木櫃と成り何れをきき
嘘を

朝きや起るをきき
衣祇

朝きやあされぬをきき
衣祇

霜少心荒

悲しく荒れし心は一雨

掃く乃遊や寂少心麻の阿と 存義

菜畑に寂寂とや鹿の鳴る 芥子村

痛痒や寂少心は一雨の声 嘸堂

熊柵

急がしけはうたぐりや是乃柵 惟舟

長衣

長き衣やなほい清くは老の夏 太祇

かりき衣や目もたへとも寂寂と 宗文

ふらふらと秋を渡るや父と母 古波

山を乃松ふりかゆは水衣の心 芥子村

長き衣乃寂寂とをうは東の心 在基

秋言

中しよまよふもは秋乃言 柳良

ささくは一雨しくは秋の言 芥子村

任はくは言乃松乃言 二柳

秋乃言くは言乃言 波反

てはくは言乃言乃言 古波

好路や抱は言乃言乃言 太祇

九月廿

出〜さふ魚〜秋乃ゆ〜
 志角
 人親乃流〜
 跡通
 生て〜人〜
 物を
 言紙〜
 山を
 腫〜
 存義
 心〜
 舟村
 戸口〜
 舟更
 舟待〜
 一嵐

秋七十九

山風や 雲〜
 晴臺
 月〜
 石波
 冬〜
 舟村
 舟〜
 舟村

俳諧宛句題林集秋之部終



秋八十



